

住民こそ主人公・住民のための市政を

明日の相模湖

No. 929

2026 年 8 月号

発行：日本共産党相模湖支部

住所：相模原市緑区寸沢嵐794-3

宮崎あき子気付

電話：042(685)1046

mail: jcpsagamiko@gmail.com



車座になって意見や思いを語り合う

津久井やまゆり園事件から10年

犠牲者を偲び語り合う

事件が起きた7月26日、今年も「犠牲者を偲ぶ会」が開かれ、約70名が参加しました。主催は事件後に結成された「共に生きる社会を考える会」で、「偲ぶ会」は9回目になります。

全員で黙祷したあと、代表あいさ

つ、鎮魂歌の独唱、来賓あいさつ、追悼舞踏などが行われましたが、今年の会の中心は「あなたにとって、共生社会」とは何ですか」と題したフリートークキングでした。

トークキングは、あらかじめ「この会に来た、きっかけや思いをお聞かせ下さい」という問いに対する小布に書かれた「声」とパネラーの方からの問題提起を中心に、思いを語り合い、交流を深めました。

「声」のいくつかを紹介します。

- 弱いままでも生きて良い社会に。
- 支えながら支えられている。支えられながら支えているんだよね。
- 共生にはコンプリクト（衝突、対立、葛藤）がつきもの。
- 人と人との距離をもっと近くに感じる世の中を目指して。
- ほんのふとした瞬間に助けを求め合える社会へ、排除しない社会へ。



追悼舞踏をする加藤道行さんと佐藤ユリカさん、音と声の演奏は飯塚直さん

- 君と出逢った日を私は決して忘れない。家族想いの姿はかがやいていた。
- 障がい者差別が法によってさばかれる社会になってほしい。思いやりではまた死ぬ人がうまれてしまうのでは。

- 排除された身として絶対に風化させない、繰り返し返させない。誰もが過しやすい世の中を目指して。
- 事件と社会の当事者として、この事件が社会から忘れられない様、いのりをこめて。生きる事に理由のいらぬ社会を望みます。



エゾアジサイ
蝦夷紫陽花

(アジサイ科アジサイ属)

2002. 08. 01 白馬山麓 鎌倉

自然観察シリーズ

NO. 597

植物

冬に大雪の降る地域の山登りに夏になって行くと、登山道脇の林

エゾアジサイ(蝦夷紫陽花)

アジサイ科アジサイ属

で時々見られるアジサイに似た、エゾアジサイの花に出会えます。日本には野山で見られる野生種は多く、ほとんどが白い花ですが、エゾアジサイの花は鮮やかな青色なので、すぐ目立ってきれいです。日陰の林の中に見られ、登山の疲れをいやしてくれるさわやかな色です。

今まで、白馬山麓や月山や最近、苗場山で見ました。日当たりの良い尾根や山頂付近ではなく、山麓から中腹の少し湿った森の中に見られます。北海道から本州の日本海側を九州の北部の多雪地に適応した種類です。



日本の人口減少

総務省は先月、今年元日時点の人口を発表しました。前年比91万6744人減の1億1973万6483人で42年ぶりに1億2000万人を割り込みました。

日本の人口が減っている原因は何か。AIのGeminiに質問してみました。「出生数が減り続けていること(少子化)」と「死亡数が増えていること(多死化)」が同時に起きているためで、特に根底にある「少子化」が進んでいる背景には、主に以下のような要因が絡み合っているという答えです。

① 未婚化・晩婚化の進行

日本では婚姻関係のもとで子どもが生まれる割合が高いため、未婚率の上昇や結婚する年齢が高くなることが、そのまま出生数の減少に直結している。

――経済的な不安：若年層の非正規雇用の増加や賃金の伸び悩みにより、「結婚・子育てに踏み切る経済的余裕がない」と感じる人が増えている。

――価値観の多様化：独身生活の自由度や、必ずしも結婚・出産を選ばないライフスタイルが広く受け入れられるようになった。

その他にも、②子育て・教育にかかる負担の大きさ、③母体となる若年女性人口の減少、④高齢化に伴う死亡数の増加をあげています。が、的を得た回答ではないだろうか。